

日本海に遊ぶ

京都大学水産実験所職員
上野 正博

雨

このわずかな水を頼りに生きているわけです。石油や原子力などの資源が近い将来に枯渇するという問題は古くから論じられてきました。この春、京都を中心とした日本海の水道ビジネス企業に開かれた世界水フォーラムには、この問題をナントカしようとして世界中の人たちが集まりました。もともと、

せん。

ところで、その昔、

というわけです。

毎日うつとらしい梅雨が続きますね。今年は雨台風が続いたせいもなく、この10年それより先に、飲み水の方が足りなくなるとい声がある。世界の各地から上がってきた。

日本の川のように雨が降るとすぐに増水、下手すれば洪水になってしまふのを見ていると、雨が海に流れ込んだ川の水を源流に戻していることがすぐに分かります。でも、大陸の大河は何千キロも流れるので、地元で雨が降らないのに洪水になったり、土砂降りの雨なのに川の水かさが減ったりすることが珍しくありません。地下水なんて荒唐無稽なことを考えたのもいたしかたないかも知れませんね。

梅雨と台風、そして豪雪、嫌なものばかりなのですが、この3つが日本に豊かな水資源をもたらし、世界的水の97%は海に貯えられています。残りの大部分は南極と北極の水、田畑を潤した飲み水や工業用水として利用できる淡水はたったの0.6%しかありません。

あのもう一つ、この10年それより先に、飲み水の方が足りなくなるとい声がある。世界の各地から上がってきた。

日本の川のように雨が降るとすぐに増水、下手すれば洪水になってしまふのを見ていると、雨が海に流れ込んだ川の水を源流に戻していることがすぐに分かります。でも、大陸の大河は何千キロも流れるので、地元で雨が降らないのに洪水になったり、土砂降りの雨なのに川の水かさが減ったりすることが珍しくありません。地下水なんて荒唐無稽なことを考えたのもいたしかたないかも知れませんね。

さて、海は巨大な水資源(みずがめ)、地球上にある水の97%は海に貯えられています。残りの大部分は南極と北極の水、田畑を潤した飲み水や工業用水として利用できる淡水はたったの0.6%しかありません。



雨に煙るクレインブリッジ

およそ60億の人々が